

社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま

ほっと HOT ほっと hot 通信

ホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

携帯サイト <http://www.kashima.jp/m/>

インターネット閲覧機能搭載の携帯電話から、

クリニックかしまの診療科情報をご覧いただけます。

1月号 Vol.300

平成30年(2018年)1月1日発行

■編集/かしま病院広報委員会

■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143

福島県いわき市鹿島町下藏持字中沢目22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報委員会(井沢 宛)まで

k-iwaza@kashima.jp

養生会 年頭のご挨拶

1
1
2

中山 大 (社団医療法人 養生会 理事長)

渡辺 修 (かしま病院 院長)

佐野 久美子 (クリニックかしま 院長)

村上 佳代子 (かしま病院 副院長 兼看護部長)

3

糖尿病のおはなし

かしま糖尿病サポートチーム

4

新任医師のご紹介

コラム ひんがら目(127)

『大横綱の品格と分限』

呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ!

リハビリPOST

イベント開催予定のお知らせ

かしま荘通信

謹賀新年

平成三十年



社団医療法人 養生会

本年もよろしく
お願い申し上げます。

養生会 年頭のご挨拶

中山 大 (社団医療法人 養生会 理事長)
佐野 久美子 (クリニックかしま 院長)

渡辺 修 (かしま病院 院長)

村上 佳代子 (かしま病院 副院長 兼看護部長)

「地域医療構想」を
「地域医療妄想」にしないために

社団医療法人養生会 理事長 中山 大

皆様、明けましておめでとうございます。

地域医療構想に基づく協議が続く中、当法人でも病床機能の見直しや再編事業が本格化しています。今まで順調に成長してきたのに、どうして変えなければならないのかとのご意見も聞かれますが、日本は既に人口減少時代に入り、病床利用率は2013年の推計から4年で既に2割減少しています。これは全国的なトレンドであつて、当地域でも同様の傾向にあります。人口減少社会において病床削減は必須であり、将来推計を無視してこれを堅持しようすることは、ともすると「地域医療妄想」にもなりかねません。

加えていわき市は、想定区域が広大な一市に限定され、そこには十分な医療従事者数が満たされておらず、病床機能としては急性期／慢性期病床がやや過剰で、回復期病床が不足していると考えられています。解説には注意が必要ですが、国が言う急性期／回復期／慢性期機能とは保険点数上の区分であり、実際の各医療機関の考え方とは異なります。実際に高齢者の急性疾患は、保険点数区分上は600点未満はたくさん存在するわけで、今後増加が見込まれるこのような属性の患者は、診療区分上は地域包括ケア病床のようないわき市は、「回復期機能」で対応することとなるでしょう。

だからこそ地域包括ケアシステムを有効に活用し、地域における要支援／介護

高齢者が、(診療単価の高い)高次機能病院へ不要に搬送されないシステムを早急に考えるべきであろうと考えます。理

想を言えば、地域包括ケアシステムに配慮した小医療圏ごとの調整を行い、各小医療圏に医療提供／需要人口構成、病院機能に応じた調整が必要でしょう。小医療圏に一般急性期から回復期、慢性期までを担う、ケア力、リハビリ力に優れた地域多機能型病院（群）を配し、高度医療への橋渡しと、退院先の確保のための在宅支援強化に注力する一方で、高度急性期／急性期を担う病院は、最後の砦としての救急医療体制と広域急性期病院機能に特化し、治療終了後は速やかに各地域の回復期機能を使つて、生活の場に戻すシステムへと機能分化していくことが理想ではないでしょうか。

現状水準維持（先をみない）に努めるのは、甚だ利得的だと思います。なぜならば、医療はたとえ民間病院であつたとしても、インフラと同じ公益性が高いものであり、将来に向けての継続性維持が必要と考えるからです。「2025年や2035年など、自分にはもう関係ない」という考えは医療人として失格だと思います。次の改定以降、各医療機関は「Stand Alone」はやつていけなくなるでしょう。今後益々議論が活発化し、「地域医療妄想」ではなく、より良い地域医療の構図が策定されることを切に願うばかりです。

2017年度 糖尿病教室のお知らせ

- 糖尿病が気になる方
- ご家族の健康に不安をお持ちの方
- 血糖値が下がらない方

どなたでも自由に参加できますので、お気軽にご来ください。

場所 クリニックかしま会議室

時間 毎月第1火曜日 10:00~10:30

今後の予定は、4ページの「イベント開催予定」をご覧下さい。



新任医師のご紹介



皮膚科
松本 麻衣
まつもとまい

診察日
月曜日、金曜日

診察時間
9時30分~12時30分
14時00分~16時30分

はじめまして。この12月よりかしま病院で勤務させて顶くことになりました松本麻衣と申します。

2014年3月まで関西医科大学皮膚科で勤務しておりましたが、ご縁がありいわき市に来させていただきました。この地域での初めての勤務をかしま病院でできることを本当に嬉しく思っております。慣れないうちには何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様何卒よろしくお願ひ申し上げます。



糖尿病のおはなし

かしま糖尿病サポートチーム

今回は、血糖自己測定(SMBG)についておはなしいたします。

糖尿病教室では、「血糖自己測定活用術～こんなときどうしたらいいの～」というテーマで、講義を行った後、実際に器具を使用し血糖測定をしました。

血糖自己測定とは、患者さんが、血糖自己測定器を用いて自分自身で血糖値を測る事をいいます。専用の穿刺器具で指先から血液を出し、測定器につければ、家庭でも簡単に測定することができます。血糖値は、食事の内容や量、運動、薬、その日のストレスや体調など、さまざまな要因によって変動します。そのときどきで変動する血糖値自分で測って記録していれば、どんなときに高くて、どんなときに低いかを把握することができます。血糖値変動の原因をきちんとと考え治療に活かしていくことが、良好な血糖コントロールにつながり、合併症の発症や進行を防ぐことになります。



血糖自己測定のメリット

- 自分の血糖値を把握し血糖コントロールの参考にできる
- 糖尿病への理解が深まり治療への意欲が高まる
- 食事や運動、薬などの効果を確認し治療に活かすことができる
- 低血糖が分かり速やかな対処ができる
- シックデイ（体調を崩しているとき）に適切な対応ができる

*インスリン注射をしている方は、保険適用となります。それ以外の方も、自費購入することができますので主治医にご相談ください。

臨床検査科 大平敦子

大横綱の品格と分限

恩師の米寿記念授業受講のため鳥取市へ帰省しましたが、その10日後に世間を騒がす事件が同じ鳥取市内で起きました。日馬富士による貴ノ岩暴行事件です。そんな関係で九州場所の前に鳥取城北高校相撲部は、元大関の琴光喜や、照ノ富士、逸ノ城、貴ノ岩、大喜鵬（山口）、石浦など、沢山の卒業生がいて大相撲の世界では有名です。監督は、石浦のお父さんです。そんな関係で九州場所の前に鳥取場所が催されました。

鳥取城北高校は愚生が中学生の時、昭和38年に設立された私学であり親友も卒業しました。最近は野球部も甲子園の常連校になり川口和久投手や、能見篤史投手を送り出しました。変わったところでは、お笑いタレントの安田大サーカスの団長安田なども卒業生です。

貴ノ岩事件で騒がれた九州場所は、他の3横綱が休場する中で白鵬が40回目の優勝を勝ち取り年間最多勝のタイトルも獲得しました。

11日目に大関嘉風に敗れたとき、手を上げて行司の軍配に異を唱え立会い不成立をアピールし、力士には許されていない前代未聞の物言いをしました。納得しない白鵬は、長時間仁王立ちになり、勝ち名乗りを上げようとする行司の進行を妨げました。翌日に審判部に呼ばれて注意された際には、勘違いであったと謝罪し問題は一見収束しました。千秋楽の優勝インタビューの際には、暴行事例に触れ、「場所後に真実を話し、體を出しきつて日馬富士と貴ノ岩を再び土俵に迎え入れたい」と宣言し、万歳三唱を観客に促しました。また、「貴乃花親方が巡業部長のままなら、巡業には行きたくない」と発言したことが明るみになりました。

理事会に呼び出されて「横綱の品格を欠

ひんがら目(127)



貴乃花は警察の捜査が終わってから相撲協会への事情聴取に応じると発言したうえでありますが、その時期を、理事会は鳥取県警が日馬富士を書類送検した時点と解釈し、貴乃花は別の時と解釈していたようです。この解釈のすれば、コミュニケーション不足ゆえの誤解であり、一概に貴乃花を責めるわけには行きません。森友学園問題での財務省前理財局長の佐川宣寿氏の「金額のやりとりはあつたが、価格は提示していない」という詭弁とは、次元が異なります。

組織のリーダーは、権限を逸脱する振舞いをした力士に対しては、毅然たる態度で臨まないと組織は守れません。昏迷を深めの相撲界の現状は、力強いリーダーの不在が原因ともいえます。八角理事長に矜持と英断が求められます。

(呼吸器科 部長 山根 嘉男)

